

発刊のことば

日本海セトロジー研究グループ代表 山田 致知

鯨学Cetologyとは、鯨類に関するあらゆる問題を追究する研究領域のことで、これに携わる者を鯨学者Cetologistという。古くは、殺した鯨のデータにもとづいて行う資源としての研究と、同じく死んだ鯨を対象とする分類学や分布の解明などが主流であったが、戦後は音の解析を始め、最近はウォッチングによる生態学的取り組みの成果が目ざましく、副産物といっっては悪いけれど、いままで鯨とは関係のなかった動物写真家あるいはダイバーによる見事な生態写真が世の注目を集めるに至った。中でも、ザトウのバル・フィッシングの記録は西脇昌治氏の繁殖行動に関する報告がじつは採餌行動であった可能性を示唆している（私自身西脇氏とともに同じ行動を観察し、当時から疑問に思っていた）。もしそうなら、この生態写真は副産物というには余りに偉大な成果といえるだろう。

例えばまた、タカ写真家望月昭伸氏は小笠原海域でセミの撮影に成功しているが、このような記録は単に傑作写真として心に刻むだけでなく、ぜひ鯨学のデータに加える道を開きたいものである。

このような予想外の発展にも係わらず、その数80種といわれる鯨類全般を見渡すとき、われわれの知識は依然として貧弱というほかはない。鯨類の知識を増強するためには、あらゆる手段を動員する必要があるが、日本海だけをかえりみても、われわれの知識は十分というには程遠い。とくに世界の水準からみると、日本海という海域の特殊性にかんがみてそこに住む鯨類の戸籍簿を編成することは、われわれが担当するのに適当な課題だと考えた。それでも、比較的数少ない鯨学者だけで取り組むにはやはり対象が大きいので、広く一般市民の協力が得られないだろうかとの願いをこめて、メンバーのささやかな研究発表を公表し、鯨類に関する認識を広く深める核として役立てることを願うものである。